

別冊

地域振興県土警察常任委員会資料

(平成28年12月15日)

1 スポーツ戦略会議の開催結果について

【スポーツ課】・・・1ページ

地域振興部

スポーツ戦略会議の開催結果について

平成28年12月15日
スポーツ課

2020東京オリンピック・パラリンピックを控え、出場選手の輩出等に向けた支援策を検討するため、県内競技団体を交えた標記会議を次のとおり開催しました。

会議では、各競技団体の指導者等から、東京オリ・パラから逆算して2019年度までの3年間で取り組もうとしている強化策をお聞きし、ソフト・ハードの両面から支援のあり方について意見交換しました。

記

1 日 時 12月14日(水) 午後2時から3時30分まで

2 場 所 鳥取県庁特別会議室

3 出席者 知事、県体育協会会長、県障がい者スポーツ協会会長、
県高等学校体育連盟会長、県中学校体育連盟会長、
県内各競技団体の指導者等(県山岳協会、県水泳連盟、県ボート協会、
県ホッケー協会、県自転車競技連盟) ほか

4 議 題 鳥取県からのオリンピック・パラリンピック選手の輩出について
(一部、事前キャンプ誘致についても議論)

5 主な意見

□山岳：東京五輪はリード、ボルダリング、スピードの3種目で行われる。国内にそれらが1ヶ所に集まった施設がなく、本県にあれば県内選手が世界を狙えるだけでなく、アジア大会も誘致できる。キャンプ誘致もさることながら、日本代表チームの事前合宿も積極的に誘致したい。

□水泳：飛込はドライランド(陸上練習施設)、バブルマシーン(衝撃緩和設備)等の必要な施設が国内に整っておらず、日本のレベルが世界に追いついていない。中央団体を頼りにしても前に進まない。県内に施設があれば、間違いなく他県からも選手が合宿に来る。

□ボート：大学生の有望選手の指導は、大学や日本協会に負う部分が大変大きい。他県では練習場に常時指導者がいるところもある。平日の練習に対応できる指導者の確保が課題。

□ホッケー：八頭高のチームカアップが不可欠。いかに競技人口を増やすかも課題。県外から八頭高に来たいというニーズもあるが察がない(特に女子)。公設のホッケー場がもう1つあるだけで底辺が広がる。加えてキャンプ誘致にはクラブハウス、トレーニングルーム、シャワールーム等の設備が必要。

□自転車：中学まで他の競技をやっていた生徒を、高校入学後に急激に強くしてきた実績がある。高校の教員(指導者)の確保が必要。キャンプ誘致には、倉吉自転車競技場を国際基準に適合させるための改修、トレーニング施設等が必要。

□パラ陸上：他県に先駆けて強化した結果、地元をベースにトレーニングしても世界に出ていった。栄養指導、メンタル・室内トレーニングなどチームとして選手を作り上げていきたい。障がい者スポーツの環境づくり、タレント発掘も重要。

□全般：多くの選手は大学進学で県外に出ていく。大学生への支援が必要。さらにトップアスリートを引退後指導者にしていく視点も重要。

⇒いただいたご意見を踏まえ、必要な支援策について新年度予算の中で検討を進めていく。